

はじめに

循環型社会構築への動きの中で、これまで、ともすると、「循環型社会＝リサイクル社会」と短絡的、画一的にとらえられがちであった「大量生産・大量消費・大量廃棄」の帰結としての単なる「大量リサイクル」では、真の循環型社会は描けないことが認識され始め、リサイクルに優先する「リデュース（発生抑制）」と「リユース（再使用）」の重要性が広く理解されてきています。それに伴い、環境省が平成15年3月から大分スポーツ公園総合競技場において行った「リユースカップの実施利用に関する検討調査」をはじめ、資源循環型社会の実現を目指す方策の一つとしてリユース（再使用）のしくみを構築しようとする取り組みが、サッカー競技場や地域のイベントなど様々な場面で多様な主体により進められています。

三重県は、ごみを出さない生活様式が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不要物は最大限資源として有効利用されるごみゼロ社会の実現を目指しており、その一環として、平成16年7月から、事業者や住民の皆さんとの連携、協働のもとに使い捨て容器の見直しによる廃棄物の減量と資源循環の推進への方策を検討するため、「リユースカップによるデポジット導入実証事業」を（株）鈴鹿サーキットランドのご協力を得て実施しました。本報告書では、実証事業の内容をまとめ、課題や可能性について分析を行うとともに、デポジットシステムの妥当性や、廃棄物の減量に向けたリユースシステム導入に関するさまざまな課題について検討を行いました。また、リユースカップの導入による環境負荷についても東京大学生産技術研究所・安井研究室の協力をいただきライフサイクルアセスメント（LCA）を試みました。さらに、県内外におけるリユースカップの導入事例やサッカー場などをはじめとした各地の運用事例を紹介し、現状での課題や可能性についてまとめました。

なお、本実証事業で使用したバイオマス由来プラスチック製のリユースカップの製作・調達にあたっては、（財）バイオインダストリー協会に格別のご協力をいただきました。実証期間終了後のカップは、三重県に寄贈いただき、県内のNPOなどを通じて、県内イベント等において今後活用される予定です。また、鈴鹿サーキットにおける実証事業の進捗管理、関係者等との調整、当報告書の作成については、（財）地球・人間環境フォーラムが受託、実施したものです。同財団は、平成14年度より環境省委託事業としてリユースカップの利用実施に関する調査研究を手がけています。この報告書が、今後、事業者や市町村においてリユース容器の利用やデポジット制度の導入に向けての検討が行われる際の参考となれば幸いです。

平成17年3月

三重県環境森林部